

第 2490 回例会

逗子ロータリークラブ Weekly Report

2013-2014 NO. 4 2013年7月25日

本日の進行(12:30)

渡辺 順寛 会員

「私の履歴書」

一次回のお知らせ

8月1日(12:30)

自衛艦隊司令官 松下泰士海将

「現状の海上自衛隊について」

会 長◆石田 隆

会長I外◆藤吉一哉

副会長◆村松邦彦

橋 克巳

幹 事◆岡本 久

S A A◆福嶋謙之輔

会 計◆市川 浩

直前会長◆岩瀬浩人

会報委員長◆宝子山泰久

例会日: 第1・2・4 木曜日 12:30

第3 木曜日 18:30

第5 木曜日 18:00

例会場: 「カンティーナ」

逗子市新宿 1-3-35

TEL: 046-870-6440

事務所: 逗子市逗子 1-9-26

萬屋ビル 2F

TEL & FAX: 046-873-0226



E-mail: zushirc@sage.ocn.ne.jp

Website: <http://www.zushi-rc.com/>

「Let's realize Rotary !!」

— 2489 回 例会記録

2013年7月18日 —



石田会長の時間 「富士登山」

7月12日、地区青少年交換委員会の恒例事業の富士登山に挑戦し、無事に帰ってきましたのでご報告いたします。

7月11日の例会後、私は山中湖のホテルへ向かい登山メンバーと合流し、早々に消灯。登山当日午前4時にホテルを出発し富士スバルライン5合目(吉田ルート)着、5時に前年度ガバナー補佐の高木さんをリーダーに来日学生8名と派遣学生10名、交換学生OBのROTEX 4名、外部の山男・山女同行サポーター6名と青少年交換委員を含む地区内ロータリアン8名の総勢36名のパーティーで山頂を目指し出発。気温は20度もあり雲一つない晴天。

ルールは、どんなに遅くとも昼12時過ぎには山頂から下山する事、山頂へ辿りつけない者は11時までには本八合目まで登り安全な下りルートと合流する事、ロータリアンは無理せず自分の事は自分で解決する事等を申し合わせて出発。

リュック(15kg以上)を背負い歩いた事のない私は、初めは身体に比べ本当に重く感じました。6合目から7合目は殆どが勾配のある岩場で、Aグループ・体力のある学生と同行サポーター約20名が先導して山頂へ向かい、他はBグループとして一步一步山頂を目指すことになりました。

7合目に着くとロータリアンの一人が高山病にかかってしまい、彼の荷物を3名のロータリアンが手分けして運ぶことに。岩場と勾配のきついジグザグの溶岩砂利の山道を歩き、午前9時40分、3100mの現在の8合目に着きました。私は、この時点ではまだ体力的に余裕が有り山頂まで行けるかなとの期待をしたのですが、本8合目までは急勾配をあと300m登らないといけない事を知り愕然としました。上を見上げると遥かかなたに本八合目の山小屋が見え、その時私も心が折れました。同時に同行していた女子の派遣学生がギブアップしてしまい、皆で励まして本8合目を目指すことにしました。

やっと11時に3400mの本8合目へ到着。体調の悪かった人たちも皆無事に本8合目まで登る事ができました。山小屋

で昼食を取り、休憩して12時に下山開始。

山小屋のおじさんから「7合目か8合目で一泊して身体を休めてから山頂へ行くもので、山男ならともかく一般の経験のない人には無理な話だよ」と言われ納得した次第です。一睡もしない夜の弾丸登山はとて危険だけど、昼間の日差しを浴びての弾丸登山も危険だよとも言われました。

ゆっくり下山し5合目には午後3時過ぎに到着。山頂まで行った来日学生の男子3名に続いて殆どの参加者が無事下山。しかし4時になりまだ数名が下山していません、派遣女子学生2名が疲労のため山頂で動けなくなりROTEXの学生に背負ってもらって下山、まだ7合目に居ることを確認。それを聞いてまだスタミナの残っている数人が再び助けに向かい午後6時30頃無事全員が下山することが出来ました。一時は緊急出動を頼もうかと思った、と後で聞いて山の怖さを再確認した次第です。

この富士山登山は、来日学生にとっては帰国前の日本の良い思い出づくりを目的とし、これから派遣される学生たちにとっては、海外で経験するであろう幾多の困難にも打ち勝てるようにとの願いを込めて、精神的にも肉体的にも鍛える事を目的に行われている事業です。

以上、疲労困憊の一語に尽きますが、ご報告いたします。

幹事報告

- 「米山月間」卓話について
- ロータリー平和フェローシップ・ロータリー財団奨学生職業研修チームメンバー 募集案内

七月のお祝い





ボリビア多民族国、通称ボリビアは、南アメリカの共和制国家。国の面積は、日本の約3倍で、その3分の1近くをアンデス山脈が占め、6000m級の高峰が14座もあり高原の国として知られ、国内の主要都市の半分近くが標高2000~4000mに位置している。南米のなかでも特に先住民の人口が多い国。北と東をブラジル、南をアルゼンチン、南東をパラグアイ、南西をチリ、北西をペルーに囲まれた内陸国である。国旗の赤は独立闘争で流された



血、黄色は豊かな鉱物資源、緑は森林資源を表している。紋章には、ポトシの銀山やコンドルなど、ボリビアの州を象徴するデザインになっている。

1970年(昭和45年)JICAの募集に応募し、サンタクルス市近郊のジャングルの開拓地、日本人の移住地診療所の医師として、奥様と3人の子供(不便な土地の生活は必ず子供達の将来のためになると思い)を連れて派遣された。

電気や水道は通っておらず、水はJICAが地下水を汲み上げて配給してくれました。町までは100キロほど離れていたため、アメリカの作ったハイウェイを使って一週間分の食糧の買い出しをし、貯蔵には灯油式の冷蔵庫が役立った。

当時、一番困ったことは蟻、蛾、蜂、蛇等の昆虫が非常に多く、診療所にも蛇に噛まれて足が倍に腫れ上がった人が年に10人ほど運ばれて来たが、血清を打つことで回復した。また、背の高いトラクターの運転中に横転し亡くなる方が多かった。

1万人に医師2人の割合と極端に医師が少ない中、4人の医師が、執刀医、麻酔医、助手と役割を交代し、十分な医療器具が揃っていない中、手術には煮沸した大工道具や縫合には綿糸の代わりに木綿糸を代用したが化膿もせず大丈夫であった。

独立採算の農村の組合立医院にて、当初2年の契約であったが3年間を過ごした。

当時のボリビアの人口は450万人で、先住民52%、混血が36%、白人が12~3%、その他が1%の割合だった。

学校はスペイン語で混血の先生がほとんど。小5の長女は1年で日本に帰国、単語は覚えていた。小2の長男は3年間でペラペラ喋り送別会では漫才をしたほどであったが、帰国したらまるで覚えていなかった。3人の子供たちはこの経験を良かったと言っている。

帰国後は医局へ戻り川崎の病院に2年間の勤務後、青森の病院へ。そこではロータリーアンを25年、分区大理(現・ガバナー補佐)も務めた。ピースボートにも船医として2度乗船。なぜそのような経験を?と問われれば『血が騒ぐ』から。



当時の中学の歴史の教科書から君主制から国を独立させたボリビア将軍

担当：長野賢太郎

■ニコニコBOX

本日合計¥ 46,000 累計¥ 152,000

篤君…とうとう卓話に引っ張り出されました。
石田君…暑い中ご出席に感謝。お身体をどうかご自愛下さい。
福嶋君、葉山君…篤さんスピーチ楽しみにしています。
船津君、岡本君、矢部(房)君、服部君、手島君…篤さん、卓話よろしくお願いいたします。
宝子山君…篤会員、南米の体験談、楽しみです。
田中君…お久しぶりです。
松井君…ロータリーに染まる毎日です。エンジョイロータリーはどこへ行ったの?お祝いを頂き。
山本(由)君…誕生祝を頂き。まだまだひよっ子の65才です。
矢島君…アラカンまで生きられるように頑張ります。
村松君…夏本番、レジャーシーズン楽しみ。卓話よろしく。
草柳君…各地夏祭り盛んです。卓話期待しています。

鈴木(安)君…70 数年使い古したこの身体、車じゃ下取りも出来やしない。パーツの下取りも無理かな?
矢部(光)君…祭りだ ワッショイ 15~16日は逗子市内が お祭り一色に。今年も元気に参加でき感謝。
橘(克)君、藤吉君…今日もあつ〜い! とても暑いです。
村田君…暑い! 熱い!
長野君…暑すぎます。でも元気に頑張ります。
山口君…暑さは夏の贈りもの!!
高洲さん…暑い毎日、太めの身体はさらに熱い!!
臼井君…暑い、頭はクールでありたい。
三宅君…暑い、汗だく、疲れる今頃、この続きは来週のお楽しみ。
山本(三)さん…この暑さ、皆様、水分補給して熱中症お気を付けて下さりませ。

【出席報告】 会員数 48名(出席免除 5名) 出席数 29名：出席率 63.04% 前回修正出席率 64.58%

【メイクアップ】 松井君、三宅君・石田君・岡本君